

式 辞

学び舎の桜は、この数年入学式には散って葉桜になってしまいますが、今年はさらに早く、新緑さえうかがえます。新生活の開始を祝うこのよき日に、PTA 会長 早坂拓紀様をはじめ、多くの保護者の皆さまのご臨席を賜り、埼玉県立伊奈学園総合高等学校 第40回入学式を挙行できますことは、私たち教職員にとりましてこの上ない喜びでございます。

先ほど入学を許可しました796名の新入生諸君、入学おめでとうございます。保護者の皆さまにおかれましては、本校職員を代表し、心よりお慶び申し上げます。

新入生諸君は、真新しい制服に、期待と不安の入り混じった面持ちで立ち会っていますが、ここから始まる3年間は、多様な学習機会、学校行事、部活動等とおして、時間ばかりでは量ることのできない濃密な体験を重ねてゆきます。果たして諸君は、この3年間でどのように彩り、充実していくのでしょうか。

自ら望み、努力して入学を果たした伊奈学園です。ですが3年の間に、時代のうねりが、それはコロナのような感染症か、わが国も巻き込まれるような紛争か、自然災害なのか見当もつきませんが、起こるかもしれません。そうした時代のうねりに翻弄されつつ、乗り越えたり、ときに撤退したりしながら、果たして諸君は3年間の学園生活をどのように彩り、充実していくのでしょうか。

中学校に入学した3年前を思い起こしてください。3年前も今と同じような期待と不安で入学したはずですが、それはコロナに振り回された3年間でしたが、いつの間にか、慣れるとともに期待と不安は薄れ、日常生活になっていったはずですが。

そのような3年間に、諸君はかけがえのない友人ができたり、行事や部活動で感動の一瞬を味わったり、逆に些細なすれ違いから友人と疎遠になったり、クラスで心を閉ざしてしまったり、部活動であっけない幕切れを迎えたりしながら過ごしてきたはずですが。

諸君は中学校の3年間でどう振り返りますか。これ以上望むべくもない充実した日々ですか。未練や後悔はありませんか。それとも、うまくいかなかったり、投げ出したりするたびに、コロナのせいにしたりして、諸君の思考力を言い訳ばかりに使ったりしていませんか。高校生活は、諸君の人生を大きく左右します。ですから、来し方を振り返り行く末を展望することが重要なのです。

ニーチェは、「永遠回帰」を説きました。永遠回帰とは、人生は一度きりではなく、何度も何度も永遠に繰り返されるものと仮定します。しかも、繰り返すたびに工夫や改善をすることができません。日々の些細な出来事まで、すべてが寸分たがわず繰り返される無限ループ、ですから感動や歓喜も、後悔や自己嫌悪も、素晴らしい出会いも悲しい別れも、友達の言葉に傷ついたことも、友達を裏

切ったことも、無限に繰り返して体験しなくてはならない。仮に人生が永遠回帰だとしたら、あなたはどう生きますか、と永遠回帰は問いかけます。

もしそうだとしたら、感動や歓喜や素晴らしい出会いは繰り返し味わってもよい。でも後悔や自己嫌悪は、もういいですよ。ニーチェは永遠回帰を説いて、私たちに「自らの在りよう生きざまを見つめ直す」よう迫るのです。

19世紀ドイツの哲学者ジンメルは、ニーチェの永遠回帰について「自分の生が何度めぐってきてもそれを肯定できるように、最善の決断をしながら生きるべきだ」と言いました。

岡本太郎も同じように、「私は人生の岐路に立ったとき、いつも困難なほうの道を選んできた。それが私の人生観だ」と言います。

人生は分かれ道の連続です。大学に進むか、文系か理系かといった進路希望も分かれ道ですが、小さな分かれ道を丹念に拾えば、1日の中にも無数の分かれ道がある。今この瞬間できえ、諸君は、校長式辞を聞き取ろうとするか、聞き流すかの分かれ道にあるわけです。

伊奈学園で過ごす3年間に、数えきれない無数の分かれ道がある。そして諸君はその都度進む道を決定していく。これは引き返して別の道を選びなおすことがなかなかできません。そしてその集大成が諸君の人格を陶冶し、人生を決定づけていく。永遠回帰しても肯定できる最善の決断を、そして判断のつかないときは困難なほうの道を選ぶ、そうした諸君の、796通りのひたむきな生きざまが、校内のそこここで見られることを、私たち教職員は大いに楽しみにしています。

保護者の皆様におかれましては、これまで慈しみ育まれた子育てに、心より敬意を表します。これからは本校教職員も参画し、お子様の健やかな成長に、全力で取り組んでまいります。

時にはご家庭と学校との間で見解の相違等があるかもしれませんが、かような場合であっても、本校教職員は、保護者の皆様と、願いを共にする立場として、良好な関係構築と連携強化に努めてまいります。ご不明の点は、ご遠慮なく学校へお寄せくださり、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、新入生諸君が実り多い高校生活を過ごすこと、そして、どのような困難に直面しようとも、仲間と英知を集め、果敢に立ち向かう気高さとしなやかさを研ぎ澄ますことを願い、式辞といたします。

令和5年4月10日

埼玉県立伊奈学園総合高等学校長 浅賀 敏行